

# 消化器・肝臓センター NEW一す

NO. 63

2020.9

## 胃癌に対する薬物療法の進歩

進行再発胃癌に対する治療は、薬物療法が基本となり、殺細胞性抗癌剤だけでなく、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬も使われるようになっていきます。

### 新しい薬剤や治療法が続々と

2001年に、胃癌治療ガイドライン第1版が発刊されていますが、当時は、胃癌に対する標準治療法は、まだ確立していませんでした。

2007年に、S-1（抗癌剤）+シスプラチン（抗癌剤）による併用療法の有効性が発表され、ようやく、胃癌の1次治療としての標準治療法が確立しました。その後、2011年にはトラスツズマブ（分子標的薬）、2014年 オキサリプラチン、ナブパクリタキセル（抗癌剤）、2015年ラムシルマブ（分子標的薬）、2017年ニボルマブ（免疫チェックポイント阻害薬）、2018年ペンブロリズマブ（免疫チェックポイント阻害薬）、2019年トリフルリジン・チピラシル塩酸塩（抗癌剤）と毎年のように、新規薬剤の胃癌に対する適応が承認され、新しい治療法も開発されてきました。

### めざましい治療の進歩

ニボルマブやトリフルリジン・チピラシル塩酸塩に至っては、3次治療以降での効果が証明されており、10数年前にようやく1次治療が確立したことを考えるとめざましく胃癌に対する治療が進歩していることがわかります。さらに、今年5月にも、承認申請されている新規薬剤もあり、他にも進行中の治験や臨床研究がたくさんあります。それは、胃癌と戦う手段が以前と比べて増えてきていることを意味しており、治療成績の向上にも繋がっています。

### さらに要求される専門性

その反面、治療する側としては、治療法は複雑化してきており、専門性が要求されるようになってきております。当科では、各疾患別に担当医を配置し、手術療法だけでなく薬物療法についても精通しております。各々の患者さんの病状や状況に応じて、安心・安全かつ効果的な治療ができるよう努力しております。

胃癌治療について  
疑問がございましたら、  
お気軽にご相談  
ください。



外科 高山 治、今本 治彦

市立貝塚病院  
TEL : 072-422-5865

